

## 2-3期校友会自主学習と忘年会

12月12日(金)2-3期校友会では、自主学習活動の一つとして、鴻巣市にある「埼玉県防災学習センター」にて過去の大地震の体験や防災に関する体験学習(1.5時間)と講義(1時間)が開催されました。



映像を通して、地震発生のメカニズムや地震災害・対策について説明して頂いた小川さん

参加者(32名)は、防災センター職員の小川さんからビデオを見ながら詳細の説明を受けました。



### 「地震体験」



地震体験マシンには5~6名に分けたグループ単位で乗り、今までに体験したことのない最大震度7の揺れを体験しました。(必死に手すりに掴まっていなければ立ってられない揺れでした。)

### 「煙体験」



その後、煙体験室で火災時の避難の仕方を教えて頂きました。

火災時の煙の恐ろしさを体験しましたが、グループ単位で入ったにも関わらず、仲間を置き去りにして出てきてしまったグループもあり、小川さんからご指導(注意)を頂きました！！

## 「暴風体験」

引き続き、暴風雨体験室に入り、冬場ということで、雨はありませんでしたが、風速30mの体験室に入り、台風の迫力を感じました。



正面を向いている人、顔を伏せている人など、それぞれの対し方で30m/秒の暴風に対処していました。



## 「消火体験」

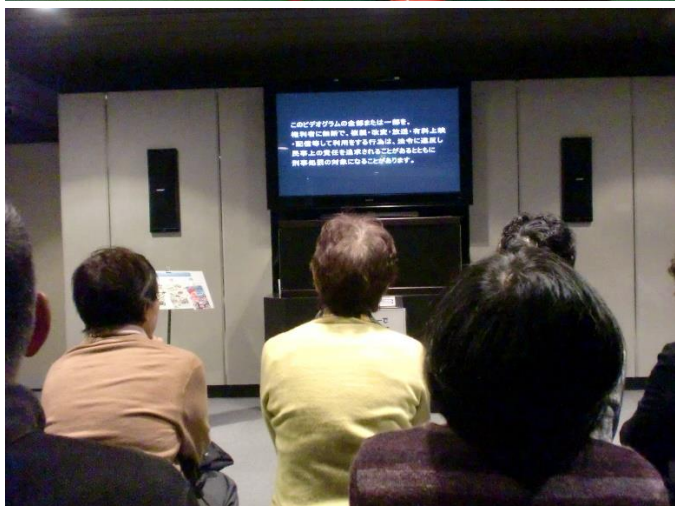


訓練用の消火器を使用し、火災発生時の対応の仕方を体験しました。

火が出た時に「火事だ！」と叫ばない人、消火器の噴射先が火を向いていない人、など訓練でもうまく行動できない場合もあり、訓練を積み重ねる必要性を感じました。

## 「防災ミニシアター」

災害ドキュメンタリー映像など約20分間の視聴で災害発生直後は、公助は期待できず、自助、共助が重要なことを再認識しました。




## 大地震に備える 命を守る3つの自助の取組

マグニチュード7クラスの首都直下地震は今後30年以内に70%の確率で発生し、最新の埼玉県地震被害想定調査結果では、県南東部の11市区に震度6強の揺れが発生すると想定されています。  
災害対応は、まずは「自分の命、安全は自分で守る」ことが重要ですが、災害対応は日頃、やっていることしかできないと言われています。日常的な備えや対策が大きな効果を発揮するのです。  
「自分の命は自分で守る」ために、3つの取組は必ずしましょう。

### 1 家具の固定

首都直下地震の被害イメージに近い阪神・淡路大震災では、死者数は6,434人に及び、死者の80%以上が家屋の倒壊や家具等の転倒による圧迫死でした。  
「自分の命、安全は自分で守る」ためには、まずは家具や家電製品の固定をしましょう。

**【家具等の固定方法】**  
原則は、L型金具等で壁下地にネジで固定。それが難しい場合は、ボール式（突っ張り棒）+ ストッパー式またはマット式 ※L型金具等→L型金具、ベルト式、チェーン式等



**特に重要なポイント**

- ① 寝ている場所
- ② よくいる場所（ダイニング、キッチン、子供部屋等）
- ③ 避難経路

は、家具や家電製品が倒れてこないようにする

### 2 災害用伝言サービス

災害発生直後は、電話が繋がりにくい状態となるため、家族の安否を確認するには「災害用伝言サービス」を活用することが有効です。予め家族で連絡方法を決めておき、日ごろから体験しておきましょう。

**災害用伝言ダイヤル「171」**

- ① 「1」にダイヤル → ガイダンスが流れる
- ② 録音は「1」再生は「2」をダイヤル → ガイダンスが流れる
- ③ 連絡を取りたい被災地の方の固定電話番号をダイヤル  
※ 011-XXXX-XXXX → ガイダンスが流れる
- ④ 伝言の「録音」または「再生」

**災害用伝言板 / nri災害用伝言板web171**

携帯電話各社が提供する「災害用伝言板」では、携帯電話番号単位で安否情報登録・確認できます。  
nri災害用伝言板web171では、携帯電話番号及び固定電話番号単位で安否情報登録・確認できます。

★ 体験利用日：毎月1日・15日、防災週間(8/30~9/5)など

### 3 3日分の水・食料備蓄

災害発生直後は、支援物資が届くまで時間がかかることを想定し、最低3日分（できれば1週間分）の水と食料を備えておきましょう。  
保存性のよい食料品を少し多めに「買い置きし」、その備蓄（ストックした食料品を、日常的に食べて、食べた分を買い足す「ローリングストック」が無駄なく有効です。

**特に重要なポイント**

- 飲料水及び食料品は最低3日分（できれば1週間分）を確保する（水は1日1人3ℓ）
- 自分や家族が食べたいものを用意する
- 主食（米、パン等）だけでなく、副菜（野菜等）や主菜（肉、魚等）など栄養バランスも考える
- 家族構成（乳幼児・高齢者・食物アレルギー等）を考慮した食料品を用意する

皆さんの行動・備えが、自分や家族の命を守ることに繋がります

彩の国 埼玉県

埼玉県危機管理防災部危機管理課 ● 住所：〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1  
● TEL: 048-830-8141 ● ホームページ: <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/e01/>

## 防災に関する講義

「来ていますか？地震への備え」というテーマで防災学習センターの江森マネージャーから約1時間、3階の研修室で講義を受けました。



講義では、

### 1、日本は世界有数の地震国

地震の発生理由、埼玉県が想定する地震、

### 2、地震が起きたらどうするか？

### 3、地震発生に備えて

### 4、災害対策は地域のみならず

### 5、防災学習センターで学習を

などの話があり、最後に

・備えあれば憂いなし

・生き延びるための対策を最優先

（地震より怖いのは「自分だけは大丈夫」という自信）と

江森マネージャーは締められたが、これを肝に銘じておきたいと思いました。



## 忘年会

学習センターでの体験学習、講義受講した後、行田市棚田の「割烹いこい」に席を写し、2-3期校友会忘年会を開催しました。



磯田校友会会長の開会挨拶



大澤副会長の乾杯の音頭



南京玉すだれクラブによる演技



見事完成した「レインボーブリッジ」⇒

←「阿弥陀様」



「ハート」が完成！！

「麦畑」の音楽に合わせた演技

「も少し こっちゃさ 来い・・・」息の合ったカップルを演出



カラオケによるのど自慢？





YさんとNさんによるデュエット



鎌倉大仏??が唄う(ちょっと似てないかな)ゴメンサイ

最後は 高橋企画委員長による「熊谷締め」でお開きとなりました。



今回の自主学習会による防災に係わる体験学習は貴重な体験となりました。江森マネージャーの講義で聞いた

- ・備えあれば憂いなし
- ・生き延びるための対策を最優先

(地震より怖いのは「自分だけは大丈夫」という自信)

を皆さんも実践して、日頃からの防災を心掛けて頂きたいと思います。

また、忘年会ではみなさんと楽しい時間が過ごせました。高橋企画委員長はじめ校友会理事の皆さま、お世話になりました。

(記: ふる伝 加藤 治朗)